

2023年6月号

故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

後醍醐天皇の2皇子／恒性皇子と宗良親王

今回は鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇の2人の皇子を紹介します。

恒性皇子（1305～33）は京都大覚寺で出家し、のち同寺の門跡（皇族住職）となり、大覚寺宮とも恒性法親王とも称されました。1332年、父である帝が討幕に失敗して隠岐島に流されると、連座して現在の二塚に幽閉されます。しかし翌年、帝が再び挙兵する



恒性皇子墓所

と、越中守護の名越時有に殺害されました。二塚の墓所は県内で唯一宮内庁の認定を受けています。

宗良親王（1311～85?）は尊澄法親王と称し、天台座主（延暦寺住職）となります。1332年討幕に失敗し、現香川県に流されました。のち還俗し、南朝の中心人物として各地を転戦。1342年、越中に入国し、その後現長野県へ移りました。市内には、現在の牧野（樺館塚・雪見岡等）や、福岡町赤丸（親王塚・屋敷跡等）、親王が開いたという極楽寺など由緒地があります。優れた歌人でもあり「新葉和歌集」、「李花集」を遺しました。（仁ヶ竹主幹）



極楽寺

問合先 博物館 TEL 20-1572